小林市文化財調査報告書　第22集

市内遺跡発掘調査報告書

２００６年３月

宮崎県小林市教育委員会

序　　文

この報告書は、小林市教育委員会が平成17年度に実施した試掘・確認調査の報告書です。

近年、小林市では開発事業等の増加により、開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっています。平成4～5年度には市内の遺跡詳細分布調査を実施し、その結果、150ヵ所以上の遺跡が確認されています。小林市教育委員会ではこの結果を受けて、開発区域内の遺跡について事前の試掘・確認調査を実施しているところです。

本書の刊行を機に、皆様の埋蔵文化財に対する一層の御理解をいただければ幸いです。

最後になりましたが、調査に御協力いただきました関係諸機関並びに地権者の方々、また発掘調査に従事していただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成18年３月

小林市教育委員会
教育長　佐藤　勝美

例　　言

1　本書は、小林市教育委員会が平成17年度に実施した、市内遺跡発掘調査の報告書である。

2　調査組織は以下のとおりである。

調査主体　　小林市教育委員会
教育長　　佐藤　勝美
課長　　堀　英博
係長　　小園　久雄
庶務　　植木　茂
調査担当　　増谷　理絵
　　落合　賢一
発掘作業員

3　本書の執筆及び編集は落合賢一が行った。

4　本書に利用する位置図は建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分の1地形図を複製したものを使用している。

本　文　目　次

◆調査の記録……1
1　八反地区……2
2　山中前地区……2・3
3　前之原地区……3
4　生駒地区……3・4
5　内侍塚地区……4
6　飯谷地区……4・5
7　種子田地区……5

挿　図　目　次

第1図　遺跡の位置および周辺遺跡分布図……1

◆調査の記録

近年、小林市では開発事業等の増加により、各種開発事業と埋蔵文化財保護との調整が重要な課題となっている。今年度は開発事業の予定されている八反地区、山中前地区、前之原地区、生駒地区、内侍塚地区、飯谷地区、種子田地区の計７地区で試掘確認調査を行い、遺構、遺物の有無について調査した。

第１図　遺跡の位置および周辺遺跡分布図（数字は調査対象地区）

1　八反地区（小林市大字細野字八反）

〔遺跡の位置と環境〕

市内南部平野部に位置し、遺跡の西部～東部にかけて弧を描くように、大淀川支流である洗出川が流れる。地権者の話によると、調査地のあたりには霧島噴火時の土石流の痕跡が残っているようである。遺跡東部には湧水千谷池がある。

調査地は平成４～５年度に実施された遺跡詳細分布調査によると、八反遺跡群の範囲内に含まれ、弥生時代～古代の遺物散布地として認識されている。また、近隣にも広範囲にわたって弥生時代～古代の遺跡が確認されており、遺跡付近には古代における日向国16駅の一つである夷守駅の推定地もある。

〔調査に至る経緯〕

八反地区では農業開発公社による畜産担い手育成総合整備事業が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（八反遺跡群）となっていたため、市畜産課と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地はイタリアン畑であったため、調査箇所については土地所有者との調整協議を行いながら確認調査を実施した。建物建設予定地に約1.5ｍ×1.5ｍのトレンチを4ヵ所設けたが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

耕作土下は黒ボク土が堆積し、深さ約110㎝（アカホヤ火山灰層）まで掘削した。トレンチャー跡が所々に見られ、また一部土石流跡と見られるような火山噴出物の残る部分も見られた。

2　山中前地区（小林市大字細野字山中前）

〔遺跡の位置と環境〕

市内南部の標高約350ｍに位置している。調査地は平成４～５年度に実施された遺跡詳細分布調査によると、瀬田尾遺跡の範囲内に含まれ、弥生時代の遺物散布地として認識されている。また、遺跡東部の旭台（高原町）では、旭台地下式横穴墓群が確認されている。

〔調査に至る経緯〕

山中前地区では農業開発公社による畜産担い手育成総合整備事業が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（瀬田尾遺跡）となっていたため、市畜産課と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認す

ることとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は畑地で、緩やかな丘陵状になっている。建物建設予定地に約1.3m×1.9mのトレンチを5ヵ所設け、確認調査を実施した。場所によっては盛土が厚く、また上層を削平されているところもある。深さ約130cmまで掘削したが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

3 前之原地区（小林市大字細野字前之原）

〔遺跡の位置と環境〕

市内南部に位置し、霧島連山北東面に広がる扇状地にあり、北西側には大淀川の支流である洗出川が流れている。

調査地は平成4～5年度に実施された遺跡詳細分布調査によると、前之原遺跡群の範囲内に含まれ、縄文・弥生時代の遺物散布地として認識されている。周辺にも竹山遺跡、山中遺跡群、山中前遺跡が所在しており、広範囲にわたって遺跡の存在が確認されている地域である。

〔調査に至る経緯〕

前之原地区では農業開発公社による畜産担い手育成総合整備事業が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（前之原遺跡群）となっていたため、市畜産課と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は畑地で、トレンチャー跡も見られる。建物建設予定地に約1.6m×1.6mのトレンチを4ヵ所設け、確認調査を実施した。耕作土の下には非常に厚く黒ボク土が堆積しており、深さ約155cmまで掘削したが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

4 生駒地区（小林市大字南西方字生駒）

〔遺跡の位置と環境〕

市内南西部に位置する夷守岳から北に広がる台地上にある。平成4～5年度に実施した遺跡詳細分布調査によれば、調査地は生駒第3遺跡の範囲内にあり、縄文及び弥生時代の遺物散布地として確認されている。また周辺には、こまくりげ遺跡など縄文時代の遺跡が確認されている。

〔調査に至る経緯〕

生駒地区では電信無線基地局建設が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（生駒第３遺跡）となっていたため、事業者と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は畑地で、丘陵状になっている。建物建設予定地に約2.0ｍ×2.0ｍのトレンチを２ヵ所設け、確認調査を実施したが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

5　内侍塚地区（小林市大字堤字内侍塚）

〔遺跡の位置と環境〕

市内南東部に位置し、岩瀬川西岸の台地と辻の堂川沿いに広がる平野部からなる。平成４～５年度に実施した遺跡詳細分布調査によれば、調査地は内侍塚遺跡の範囲内にあり、縄文時代から弥生時代に及ぶ遺物散布地として確認されている。

〔調査に至る経緯〕

内侍塚地区では電信無線基地局建設が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（内侍塚遺跡）となっていたため、事業者と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺跡所在を含めた遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は畑地で、トレンチャー跡も見られる。建物建設予定地に２ｍ×20ｍのトレンチを２ヶ所設け、確認調査を実施したが、遺物・遺構ともに確認されず、遺跡の存在は確認できなかった。

6　飯谷地区（小林市大字東方字飯谷）

〔遺跡の位置と環境〕

市内北東部に位置し、丘陵を流れる浜の瀬川、谷の木川が浸食することで、複雑な谷を形成している。遺跡は、ほとんどの台地上で確認されている。河川上流では縄文時代遺跡が主であるが、中下流沿いでは弥生土器片の散布が著しく見られる。

〔調査に至る経緯〕

飯谷地区では電信無線基地局建設が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文

化財包蔵地（大丸遺跡）となっていたため、事業者と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は畑地で、トレンチャー跡も見られる。建物建設予定地に２ｍ×２ｍのトレンチを２ヶ所設け、確認調査を実施したが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

7　種子田地区（小林市大字北西方字種子田）

〔遺跡の位置と環境〕

市内北西部に位置し、地区南部を東西に流れる石氷川、種子田川及び池島川北岸から裏日向山地に至る丘陵地帯となっている。

遺跡は、池島川北岸の台地と真方川、永久井野川沿岸の小丘陵上に集中している。

種子田川上流の猫坂では、平成３年３月に試掘調査が行なわれ、弥生土器片と住居跡のような落ち込みが確認されている。また、縄文時代の集石遺構も周辺で発見されている。

〔調査に至る経緯〕

種子田地区では電信無線基地局建設が予定されている。工事予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（種子田遺跡群）に隣接していたため、事業者と市教育委員会とで事前協議を行い、工事着手前に遺物・遺構の有無を確認することとなった。

〔調査の概要〕

調査地の現況は竹林で占められている。トレンチの設定に当たっては、竹の根により掘削の難航が予想されたこともあり、建物建設予定地に２ｍ×４ｍのトレンチを１ヶ所設け、確認調査を実施したが、遺物・遺構ともに確認されなかった。

≪引用・参考文献≫

『宮崎県史 資料編 考古２』　宮崎県　1993

中村真由美　「市内遺跡詳細分布調査報告書」『小林市文化財調査報告書』第７集
1994　小林市教育委員会

小林市　八反地区

図版 2

小林市　山中前地区

小林市　前之原地区

図版 4

小林市　生駒地区

小林市　内侍塚地区

図版 6

小林市　飯谷地区

小林市　種子田地区

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	小林市文化財調査報告書
シリーズ番号	第22集
編著者名	落合賢一
所在地	宮崎県小林市大字細野38番地1
発行年月日	2006年3月31日

調査地区名	所在地	調査期間	調査面積	出土遺構	出土遺物	調査要因
八反地区	小林市大字細野字八反	H17.4.18 ～4.19	9㎡	なし	なし	畜産担い手育成総合整備事業
山中前地区	小林市大字細野字山中前	H17.4.19 ～4.22	12㎡	なし	なし	畜産担い手育成総合整備事業
前之原地区	小林市大字細野字前之原	H17.5.9 ～5.11	10㎡	なし	なし	畜産担い手育成総合整備事業
生駒地区	小林市大字南西方字生駒	H17.5.2 ～5.17	8㎡	なし	なし	電信無線基地局建設
内侍塚地区	小林市大字堤字内侍塚	H17.11.22 ～11.22	40㎡	なし	なし	電信無線基地局建設
飯谷地区	小林市大字東方字飯谷	H18.3.29 ～3.29	8㎡	なし	なし	電信無線基地局建設
種子田地区	小林市大字北西方字種子田	H18.3.29 ～3.29	8㎡	なし	なし	電信無線基地局建設

小林市文化財調査報告書第22集
市内遺跡発掘調査報告書

平成18年３月

編集・発行　宮崎県小林市教育委員会
宮崎県小林市大字細野300番地
印　　刷　㈲金子印刷所